

監査法人が「待った」

RIZAP

積極的なM&A(合併・買収)による拡大戦略がつまづいたRIZAPグループ。2019年3月期の業績下方修正で割安な企業買収で発生する「負ののれん」の問題点に注目が集まったが、それ以上に監査業界で疑問視されていた会計処理があった。子会社の借金を活用した利益計上だ。担当する監査法人がこつした利益のかさ上げに「待った」をかけていた。

11月14日、RIZAP「望」を巡る会計処理が今春、会計士たちの間で話題になっていたといふ。特別利益の発生に関するお知らせ。3月30日の営業利益の6割を占めていた「負ののれん」が今期は計上できなくなると発表された。新規のM&Aを凍結することで、前期の営業利益の6割を占めていた「負ののれん」が今期は計上できなくなると発表された。

「問題になってきた利益のかさ上げの手法は負ののれんだけじゃない」。大手監査法人の幹部は明かす。中でもRIZAPが15年に買収した女性用衣料品のネット通販を手掛ける上場子会社「夢展」

1円で企業買収
宝飾品販売のトレセンテは業績が低迷しており、17年4月にカタログ通販大手ニッセンホール



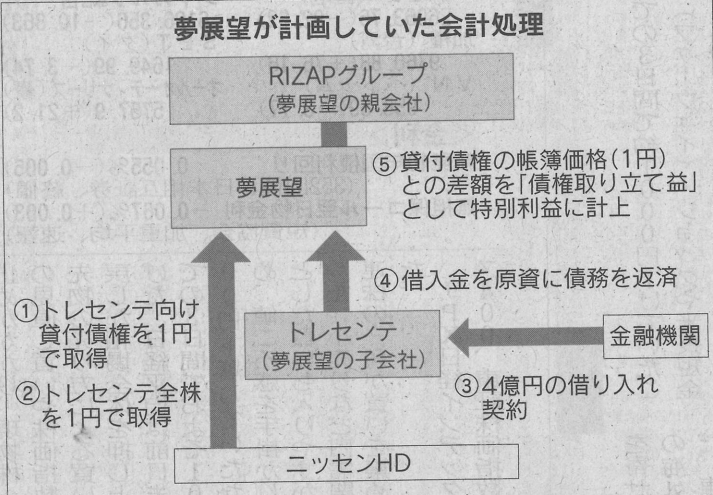
今期の赤字転落を発表するRIZAPグループの瀬戸健社長(左)と松本晃代表取締役(右) (11月14日)

子会社の借金使い「取り立て益」

太陽、利益計上を疑問視

だが話はこれで終わらない。夢展望は買収にあわせてニッセンHDが抱えていたトレセンテ向け

この結果、夢展望は18年3月期末に17年3月期末は4億3200万円だった連結債務超過を解消し、東証マザーズの上場維持基準を満たした。親会社のRIZAPが得意とする業績不振企業の買収を使って「負ののれん」を計上し、上場廃止の危機を逃れた。



貸付債権も1円で取得。買収後にトレセンテは金融機関と4億円の借り入れ契約を結んだ。トレセンテは借入金を使って夢展望に債務を返済。夢展望は1円で計上していた貸付債権の帳簿価格との差額を単独決算の特別利益に計上する算段だった。これが3月30日に公表した「債権取り立て益」の仕組みだ。

「夢展望は1円で買った赤字企業に借金させ、単独決算の見栄えも良くしようとしていた。RIZAP関係者はその狙いをこう証言する。この関係者によると、RIZAPのグループ会社でこんな取引が複数あったという。

こつした利益の計上に「待った」をかけたのが、18年4月6月期決算からRIZAPの監査を引き受けた太陽監査法人だった。札幌証券取引所から東証1部への「へら替え」を目指していたRIZAPは、08年から監査を担当してきた東邦監査法人から新規株式公開の支援に強い監査法人に変更しようとしていた。

東邦は監査を担当する上場企業が10社程度という小規模の監査法人だ。東邦はRIZAPの会計処理について「個別案件の回答は差し控える」としているが、RIZAP側は「(利益計上の手法について)東邦から指摘を受けたことはない」と話す。だが東邦に代わって準大手の太陽が監査を引き受ける過程で、RIZAPの会計処理への

「見方」が一変。太陽はRIZAPと監査契約を結ぶに夢展望などを含め、の不透明な利益をめるよう求めた

計上を17... 夢展望は3日表から2週間後日、一転して特計上を中止させた。夢展望が買ったトレセンテに返済の可能性があらず、子会社も過性の返済金を上するのは不適環取引」にならざる。太陽側が判断られる。

一方、東邦担当の会計監査適切に指摘している。夢展望新聞の取材に「待った」をかけた意図は「太陽側が判断された」と説明した。カルビー会ZAPに転じ表取締役は6降、太陽側と重ねてきたと下方修正はA凍結を主だった。太陽側の働きのきかたつた上げを計画し自身だ。RIZAPは昨年11月に去最大(75の5分の1)しほんだ。夢は3月末の準に沈んでい(阿部真也、